

## 福岡県鞍手郡の金石文集成 二 (宮若市篇一)

中村修身

### はじめに

福岡県旧鞍手郡(鞍手町、直方市、宮若市及び八幡西区木屋瀬、野面、笹田)の金石文集成を行って来たところである。今回は、宮若市の金石文の報告をおこなうこととした。なお、集成は原則として江戸時代末までとした。

資料の紹介にあたっては、物件ごとに、銘文の書かれている物件、その現所在地(本来の所在地と異なる場合は雑記に記した)、銘の書かれている部分そして銘の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えた物件もある。

多くの資料で判読に難渋したが、今後の歴史研究の一助となればと思ひ史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。毎回発表の場を御提供いただいた別府大学史学関係の諸先生、いろいろと情報を提供いただいた宮若市の歴史に造詣の深い小方良臣氏、金石文に造詣の深い国友千昭氏、宮若市教育委員会清水範行氏のご教示ご支援を得た。また、貴重な御物や文化財に快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。国友千昭氏は令和二年七月十二日に亡くなられた。この場をかりてご冥福をお祈りします。

### 宮若市篇

1 平山經筒1 宮若市上有木出土

筑前國鞍手郡 有木里造圓前

奉書寫妙法 蓮華經八卷

井開結經妙法 十一日奉書寫了

元永二年三月

〔空白〕

右件如法經者 爲法界衆生

平等利益也

元永二年 次亥 歲己 九月廿一日中

觀進僧正優

雜記 原物の確認ができない。銘は『宮田町誌』によった。

2 平山經筒2 宮若市上有木出土 宮若市石炭史料館所蔵

爲筑前國 鞍手郡筵内里

奉書寫如法 妙法蓮華經

一部八卷 等開結二經

般若心經

右為自他法 界平等

利益供養 如右

保延四年 歲次 戊午十月十八日

執筆院嚴 鑄之遍序

觀進永嚴文泰 助貞阿部氏敬白

3 都市八幡神社經筒1 宮若市沼口一〇九三 法蓮寺所藏

(塔筒面)

鎮西筑前國鞍手郡土方

香椎之末宮 尊廟大菩薩

殊為報神恩 奉書寫供養

如法經一部 始從於願主

結縁之旦那 二世之大願

爲決定成就 為法界衆生

同平等利益

願主清原貞延值春代敬白

助成巧尊智

保元二年 次丑 供養 歲丁 九月廿日 畢

(底 (湖州鏡))

湖州石念二叔 (以下二行陽刻)

上色青銅照子

雜記 若八幡神社 (宮若市沼口一九五) 出土。天保年間の拜殿改築時と明治十九年十一月

二十六日の神殿改築時に合わせて經筒四本が出土。その内の一本である。

4 都市八幡神社經筒2 宮若市沼口一〇九三 法蓮寺所藏。

鎮西筑前國鞍手郡□方

香椎之末宮 尊廟大菩薩

殊為報神恩 奉書寫供養

如法經一部 始從於願主

結縁之旦那 二君之大願

爲決定成就 □□□□□

同平等利益

願主清原貞延 □□□□□

助成巧尊智

保元二年 次丑 供養 歲丁 九月廿日 畢

雜記 若八幡神社 (宮若市沼口一九五) 出土。天保年間の拜殿改築時と明治十九年十一月

二十六日の神殿改築時に合わせて經筒四本が出土。その内の一本である。

5 梵鐘 宮若市湯原六二 東禪寺所藏

敬白 (この行陽刻)

筑前州宗像郡□ (この行陰刻、削っている。)

□□□□□□ (この行陰刻、削っている。)

奉鑄懸鴻鐘一口 (この行陽刻)

願主金剛佛子安嚴 (この行、子は陰刻、他七字は陽刻。)

并為助成合力輩 (以下五行陽刻。)

師悵父母後菩提

也

建保三季乙 三月十八日

大工坂田家守

雑記 来歴について諸説ある。その一・『筑前續風土記拾遺』第四卷の宗像郡朝町八幡宮項に「古鐘一口あり元禄の頃當處の延寿浦という所の圃中より掘り出せり 銘に建保三年己亥三月五日大工坂田家守と記せり 其銘文字あれども摩滅して詳ならず」と紹介している。

6 梵鐘 宮若市水原三九五 若宮八幡神社旧蔵

一口鐘鴻施入山田宮其響無邊居三界天獄内證無上極果妙覺位外救一切有情流轉苦 遊歩十万盡 虚空邊際 自他平等 成轉法位 諸行無常 是生滅法 生滅々後 已寂滅已樂 大日本國鎮西筑州鞍手郡山田若宮洪鐘 一口 右幸阿為當社神主蒙靈神擁(落字アルカ) 福慶安全子孫繁榮之間 為神恩報謝令冶鑄洪鐘一口所令寄進當宮神前也仰願以此景福普覃十万別 金輪聖王天長地久御願圓滿 殊庄家豊稔 諸人快樂 願主幸阿 現世當 來 諸願成就 乃至有頂 無間平等利益敬白 正平十一丙申年正月十一日 願主幸阿敬白 大工大江貞房

雑記 銘は『太宰官内志』によった。筑前国芦屋鑄物師の作品である。『筑前國續風土記拾遺』

鞍手郡水原村若宮八幡宮の項に「正平年間当社に掛けし洪鐘、今福岡大寺徳永寺に在り」と記している。銘中の山田若宮と水原若宮八幡宮との関係が不明。昭和二十年六月の福岡大空襲のおり消失と伝えられている。

7 鐔口 宮若市芹田六八三 毘沙門堂旧蔵  
奉施入葦屋福嚴寺地藏宝前 文明庚子卯月吉日 願主衛門三郎 胡白

雑記 原物が確認できなかったので、銘は『筑前國續風土記拾遺』第三卷によった。

8 城守院成清禪定門墓 宮若市大字小伏字繩手添

〔正面〕  
城守院成清禪定門

〔裏面〕

天文廿一年三月廿五日

〔空白〕

宗像郡山田之城主宗像正氏公之家臣

光石松備前守成清于此度戦死□

雑記 昭和期に松井氏によつて建てられた。9の横にある。

9 柴田六郎墓 宮若市大字小伏繩手添

石松備前守成清家臣

柴田六郎墓

天文廿一年三月廿五日

雑記 昭和期に松井氏によつて建てられる。8の横にある。

10 祖先安武七郎左衛門夫婦之墓 宮若市沼口 道端

〔正面〕

祖先安武七郎左衛門夫婦之墓

〔裏面〕

立花道雪公老臣 天正八年十一月三日寂

安武駿河守號ス 全六年三月十五日寂

全人妻

雑記 天正年間の墓の形式を全く踏んでいない。近年(昭和期)に建てた顕彰碑と言うべきか。

11 鰐口 宮若市黒丸一五五八 清水寺旧蔵

奉掛掛鰐口之事日掛鎮西筑前国鞍手郡吉川庄清龍山清水寺千手觀世音菩薩御宝前

薩御宝前

冷泉津大工始

大永朝臣 吉田合右工門

小工 源右工門

于時慶長四己亥九月吉日

院主真言宗沙門口在願主

寺内神左衛門

雑記 原物は確認できなかった。銘は『筑前若宮清水寺』によった。

12 殺生禁断碑 宮若市宮田四八四五 極楽寺

〔正面〕

殺生禁断

〔裏面〕

慶長十六年

二月朔日

長政

雑記 長政は藩主黒田長政公である。

13 楼門寄進碑 宮若市水原三九五 若宮八幡神社

〔正面〕

楼門寄進碑

〔裏面〕

有吉会祖先

寄進 有吉石見守宗宅

慶長十八年建立

雑記 近年の建て替えである。

14 量誉妙壽墓 宮若市龍徳七七九一 光明寺

量慶長十八年 癸丑

量誉妙壽

十一月十九日

雑記 黒田長政伯母の墓とされている。後世の建て替えによる銘の誤刻か。『筑前国統風土記

拾遺』第三巻は「光明寺に上月十郎景高の内室の墓阿里 銘は景壽妙壽大姉慶長十八年十一

月十九日卒と有 是興雲公の伯母にして申橋豊後守伊定の長女也」と記している。

15 泰榮茂安禪定門墓 宮若市金丸(越後) 墓地

寛永三〇〇〇

泰榮茂安禪定門

〇〇〇〇〇〇

雑記 『筑前國續風土記拾遺』 卷之十六に記載あり。平成十七年に確認。平成二十八年一月十七日時点原物確認できない。

16 春日神社鳥居 宮若市倉久八七 春日神社

〔石柱〕

奉建立鳥居 倉久邑願主古野半三郎

鞍手郡 祠官四位土佐守

〔正面額表面〕

春日神社

〔裏面〕

平成二十七年九月吉日

ザクラシックゴルフ倶楽部

〔左柱〕

寛永四丁卯年 三月吉日 石匠 川嶋村福間茂六  
御徳村森田金右衛門

17 大悟院殿貞譽妙源大姉墓 宮若市金丸(越後) 墓地

〔正面〕

寛永五天

大悟院殿貞譽妙源大姉

□□□□

雑記 『筑前國續風土記拾遺』 卷之十六に記載あり。平成十七年に確認。平成二十八年一月十七日時点では原物確認できない。

18 大涼院殿墓 宮若市宮田四八四五 極楽寺

〔右面〕

大涼院殿徳譽榮春尼公大姉尊儀

〔正面〕

大涼院殿徳譽榮春尼公大姉尊儀

〔左面〕

大涼院殿徳譽榮春尼公大姉尊儀

〔裏面〕

寛永十二乙 亥正月十二日没

松平筑前守長政公御室

直方黒田市幸正公御母儀

徳川家康公養女

(保科弾忠彈正直之女)

雑記 昭和五十年代に石炭鉱害復旧に伴い改築されている。旧形は比較的良く受け継がれている。裏面、黒田市は黒田氏の誤刻である。

19 毛利勝元墓 宮若市大字脇田字安河内

〔正面〕

寛永十三年 施主

行譽源居士

五月十日



〔裏面〕  
□屋仁右衛門□□□□□□□□□□□□□□□□  
〔三行。〕は改行頭〕

雑記 墓の形からすると建て替えである。『筑前續風土記拾遺』第三卷に「勝元寺址 勝元寺に在。毛利勝元と云者開基の寺也」と云。是人下村の豪長勝屋氏の祖也。其墓として安河内の園中に大なる墓有。寛永十三年行譽深栄等の文字あり。今も勝屋氏より祭典候」と記している。

20 現光院覺譽妙正 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

〔右面〕

寛永十四丁 天

〔正面〕

現光院覺譽妙正

〔左面〕

四月十四日

〔裏面〕

當國鞍手郡脇田村人勝屋仁右衛門「門妻現光院覺譽妙正行年三十」七滅生處者同國怡土郡畑江村「武家松岡正左衛門元匡娘也」

〔四行。〕は改行頭〕

雑記 墓形から再建墓と見られる。勝屋氏関係の墓が九基ある。

21 久譽周度大然居士 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

寛永十四年

○○○  
久譽周度大然□□  
六月七日

22 原田六郎左衛門墓 宮若市金丸(越後) 殿ん墓

〔正面〕

寛永拾五年

圓寂 讚譽浄香居士

二月廿二日

〔裏面〕

豊之前劔採銅所之所生原田

六郎左衛門尉吉成肥劔高

来郡有馬庄原之城下於大江

口一揆夜掛節遂戦死

建之

孝子 原田宇衛門

雑記 島原の乱大江口の夜襲は黒田・鍋島・寺沢勢が寛永十五年二月二十二日に仕掛けた合戦である。

23 清音是水信士墓 宮若市金丸(越後) 殿ん墓

〔正面〕

寛永十五年

清隱是水信士

三月六日逝

〔裏面〕

原田六郎左衛門悴他宋之依

養育改名字吉武左兵次一辰云  
當國當所之所生肥后原之城下

〔右面〕

於大江口一揆夜掛之節蒙

疵卒正年廿七歳

孝兄吉武半衛立之

雑記 島原の乱大江口の夜襲は黒田・鍋島・寺沢勢が寛永十五年二月二十二日に仕掛けた合

戦である。清隠是水信士は讃譽浄香居士の子である。

24 一祐慶室信士墓 宮若市宮田四八四五 極楽寺

于時寛永十七天

○ 一祐慶室信士

八月廿四日

雑記 寛永期の形式ではない、再建か。

25 木本助右衛門正則墓 宮若市山口三八〇九 円通院墓地

〔正面〕

一成部忠禪定門

〔裏面〕

萬治元戊戌年

木本助右衛門 正則

二月廿日

26 法譽宜齋居士 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

〔右面〕

寛文七丁未天

〔正面〕

法譽宜齋居士

〔左面〕

十一月廿四日

〔裏面〕

筑陽鞍手郡脇田村住人大江朝臣勝屋仁右衛門

一利添名法譽宜齋居士行年六十八口

同名空譽素閑居士之父也 常於練舎發

心故同郡宮田村於極楽寺棄捨恵心上

人筆之弥院畫像一軸誠為佛是菩提也

雑記 勝屋氏関係の墓が九基ある。

27 石階段 宮若市下一一六九(高宮) 日吉神社

〔右側上柱正面〕

延寶四丙辰年九月吉祥日

〔左面〕

奉寄進石壇六什貳

〔裏面〕

吉川莊 勝屋次郎右衛門尉重利

下村住 〔左側上柱右面〕

奉寄進石壇六什貳

(正面)

吉川莊 勝屋次郎右衛門尉重利  
下村住

(裏面)

延寶四年丙辰年九月吉祥日

28 清水寺梵鐘 宮若市黒丸一五五八 清水寺旧蔵

九州筑前国鞍手郡吉川青龍山清水寺八行基菩薩揆録苦開連場自刻千手觀

音預□□□□夫大土方觀者雪感妙応月苒水也又伐柳剎古鳳尾□瓦珍瓏

焜熠借天下大觀也□然星霜漸積願堂朽損□尊粟闍梨歎之御資加修造新宮

坊舎

中興榮算法師

元和二壬戌十一月吉日 法師快儀記之

鞍手郡下村施主

大江朝臣 勝屋次郎右工門重利

博多前原住

磯野□右衛門慶興

同姓 七右衛門慶永

同姓 前四郎

雜記 原物の確認はできなかつた。銘は『筑前若宮清水寺』の関連記事によつた。

29 樹庭完栢 宮若市水原 五差路(地藏堂)

貞享四卯天

樹庭完栢

十二月四日

30 樂譽妙安墓 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

(右面)

貞享五戊辰年

(正面)

樂譽妙安

(左面)

七月十八日

(裏面)

施主

當郡下村住人勝屋次良衛門

素性地

内□

宗像郡津屋崎佐治徳左衛門□□

31 庚申塔 宮若市水原 三叉路

(右面)

元禄元戊辰年

(正面)

謹請庚申尊安鎮給

(左面)

正月吉日

32 庚申塔 宮若市本城亀石 亀徳太子堂

(本体正面)

元禄三天



奉造立庚申尊天

二月十五日

〔台石正面〕

三千「弥助」□助「作吉」□助「源八」千一郎

〔七行。「は改行頭」〕

33 庚申塔 宮若市宮田四八四五 極楽寺

〔本体右面〕

元禄三庚申年

〔正面〕

謹□□□尊天

〔左面〕

五月五日

〔台石右面〕

傳敏「□益」□貞「□□」面念「私□□」□□

〔七行。「は改行頭」〕

〔正面〕

造立衆「十五人

〔二行。「は改行頭」〕

〔左面〕

木六「角□」木□「正吉」藤七「平作」□内「羽介

〔八行。「は改行頭」〕

34 灯燈残片 宮若市黒丸一五五八 清水寺

元禄四 辛未天

清水寺 石燈籠一對

〔空白〕

福丸村 □村

寄進主 村上氏松□

35 水盤 宮若市下一一六九 日吉神社

〔正面〕

奉 下村住

〔裏面〕

□禄六亥酉年

寄 清水十助 □月吉日

進

36 庚申塔 宮若市宮田三五三〇（生見） 男田神社

元禄七天

庚申尊塔請成就

三月廿二日

37 庚申塔 宮若市沼口一九五 若八幡神社

元禄七甲子天

謹請庚申尊安鎮給

卯月吉日

雜記 干支が年次と合わない。

38 庚申塔 宮若市生見 道端

元禄七戌天

庚申尊塔搆一座

十一月吉日

39 猿田彦塔 宮若市鶴田一二二二一四 須賀神社

〔正面〕

十一月吉日

謹請猿田彦太神

力七水町中

〔左面〕

元禄七甲戌歳

40 庚申塔 宮若市水原 三叉路

〔右面〕

元禄九<sup>丙</sup><sub>子</sub>天

〔正面〕

謹請 庚申尊安鎮給

〔左面〕

正月吉日

雜記 三叉路横に五基の庚申様が祀られている。

41 庚申塔 宮若市下有木二七二番 熊野神社

〔右面〕

元禄九<sup>丙</sup><sub>子</sub>天

〔正面〕

謹請庚申神安鎮給

〔左面〕

九月吉日村中

42 灯燈 宮若市原田一六二四 原田神社

元禄九丙子年

奉寄進原田大明神

九月吉祥日

原田村住人

真角文七朱□

43 庚申塔 宮若市山口一五八〇 八幡神社

〔本体正面〕

元禄十丁丑

謹請庚申尊安鎮給

正月吉日

〔台石右面〕

小二良「介二良」□□「七郎」源□「□□」木八

〔七行。「は改行頭」

〔正面〕

覚歳「□万」源二良「羔成」□エ門「彦七」忠二良

〔七行。「は改行頭」

〔左面〕

〔泥人形で埋って確認できず〕

44 庚申塔 宮若市高野二三四 興玉神社

元禄十丁丑 高野  
庚申稱満座所 村

正月吉日 中

45 庚申塔 宮若市小伏 犬鳴川堤

〔右面〕

元禄十丁丑年

〔正面〕

庚申祠建立

〔左面〕

二月吉日

〔台石裏面〕

小平次「正玄」志四郎「□六」小助「小七」□□長七「半□

〔八行。「は改行頭」

〔右面〕

新六「太作

〔二行。「は改行頭」

46 庚申塔 宮若市上有木(谷) 道端

元禄十丁丑天

庚申祠建立

二月吉日

47 庚申塔 宮若市湯原 道端

〔右面〕

元禄□丁丑天

〔正面〕

南無庚申尊天

八□

大城

〔左面〕

二月吉日

雑記 神仏習合である。

48 庚申塔 宮若市下稲光 地藏菩薩堂

元禄十天

謹庚申尊天譽

卯月三日

49 庚申塔 宮若市金生二二三〇 白山神社(下宮)

〔右面〕

元禄十丁丑天

〔正面〕

庚申祠建立

〔左面〕

八月吉日

雑記 再建されている。

50 庚申塔 宮若市乙野 集落内道端

〔本体正面〕

元禄十丁<sup>丑</sup>天

庚申祠建立

八月吉日

中村

〔台石正面〕

51 智光院浄譽清心墓 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

〔右面〕

そ恵内する御法能船實の里て

さ茂御し久流婦□らく乃こし

〔正面〕

智光院浄譽清心

〔裏面〕

筑陽鞍手郡下村住人勝屋素閑妻知光院

浄譽清心行年六拾貳没生處者同國同

郡吉川庄脇田村住人勝屋五郎右衛門大

江朝臣元信娘也元禄拾丁丑天九月五日

52 庚申塔 宮若市山口(岡田) 集落内道端

〔右面〕

元禄十一戊寅年

〔正面〕

南無庚申尊祠

〔左面〕

二月十五日

雜記 神仏習合である。

53 堅譽盛勇居士 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

〔右面〕

元禄十一戊寅天

〔正面〕

堅譽盛勇居士

〔左面〕

五月晦日

〔裏面〕

筑陽鞍手郡下村住人大江朝臣勝

屋次郎衛門元真汰名堅譽盛勇居

士行年四拾壹没同名空譽素閑居

士之初子也常發大心山玉宮神前

石梯数拾段寄進誠修善之厚志也

54 庚申塔 宮若市稲光 平から下稲光への道端

〔右面〕

元禄十一戊寅年

〔正面〕

謹請庚申尊天

〔左面〕

六月吉日

55 灯燈(一対) 宮若市本城六一二 三所神社

〔右側燈〕

元禄十一戊子天

八月吉日

奉寄進

宮田三所宮

奉寄進

元禄十一戊子天

八月吉日

56 原田宮鳥居 宮若市原田一六二四 原田神社

〔右柱〕

昭和十三年十二月吉日再建

員正後裔

有吉尚次

有吉榮吉

有吉徹夫

有吉員男

有吉重作

員利後裔

ヤハタ有吉邦男

員正後裔

有吉興吉

有吉清松

有吉□一

〔正面額〕

原田宮

〔左側燈〕

元禄十一年九月奉献

有吉八助員正

同典三右衛員利

嘉永六年六月為風顛仆其後裔修復之

有吉八次員章

有吉角藏員光

57 庚申塔 宮若市山口九三(小原) 伊久志神社

〔右面〕

元禄十二天

〔正面〕

庚申祠建立

〔左面〕

卯九月吉日

〔台石正面〕

武二「□□」化□「新五」文八「熊七」□□

〔七行。「は改行頭」

58 庚申塔 宮若市黒丸一五五八 清水寺

〔本体右面〕

元禄十三天

〔正面〕

庚申尊天

〔台石正面〕

村中〔横書き〕

觸口

〔左面〕  
二月吉日

59 庚申塔 宮若市沼口一九五 若八幡神社  
〔本体右面〕

元禄十三<sup>庚</sup>天  
〔正面〕  
庚申尊鎮座 沼口村  
〔台石正面〕

〔左面〕  
卯月吉日

60 灯燈 宮若市原田一六二四 原田神社  
元禄十三<sup>庚</sup>天  
奉寄寄進

原田大明神  
六月吉日  
原田村住  
勝木市之丞

61 地藏像 宮若市水原二八三 善徳寺

〔台石正面〕  
元禄十三<sup>庚</sup>天 十一月廿四日  
〔裏面〕  
施主水原村「本田平右衛門」  
〔二行。〕〔は改行頭〕

62 地藏像 宮若市福丸三七七 日吉神社境内

〔台石右面〕  
元禄十四<sup>辛</sup>巳天 八月廿四日  
〔正面〕  
奉寄進  
〔二行。〕〔は改行頭〕

〔左面〕  
施主 福丸村「永瀬甚三郎」  
〔二行。〕〔は改行頭〕

63 庚申塔 宮若市上有木 笠松四国第八十二番所  
元禄十四<sup>辛</sup>巳年  
庚申尊天  
十月七日

雜記 六基の道祖神が合祀されている。その内の一基である。

64 庚申塔 宮若市宮田(生見) 集落入口の道端  
元禄十五年  
奉拜庚申尊天  
九月吉日

65 聖龍院空譽素居士 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地  
〔右面〕  
元禄十五<sup>壬</sup>午天  
〔正面〕  
聖

龍 空譽素居士

院

〔左面〕

六月廿有六日「行年七十有四

〔二行。〕は改行頭〕

〔裏面〕

同若下村之住人大江氏勝屋次郎衛門重利

法名空譽素閑居士者天性朴質而飯心佛棄

孜孜纂道也故見大守尧之様且惠衣服等之

應物常發大心不擇佛神社拗捨衣資而補

其闕也其寄進品物者磬鏡銅鈸鈴并法被

二片寄進浄久寺鐘一口寄進清水寺且瑞石

寺備磬一口於職信士修善之厚志豈謂小補哉

故傳後世子孫口徒識信士如此之良猷者也

雜記 勝屋氏関係の墓が九基ある。

66 一字一石塔 宮若市宮田五六二九 瑞石寺

〔柱右面〕

水不能漂諸排出世之道場轉法輪般涅槃之地也矣

彌口祈國土安隱焉民豊樂俳日増輝法輪當轉

豊之後州曹洞沙門雷洲欽誌焉

〔正面〕

一字一石經 本論視瑞石口口

妙法蓮華經一字一石供養之塔

十方諸佛道 此地永轉満輪

〔左面〕

茲歲癸未之春窓請於口之瑞石為四衆令開示法華經直入佛死

見道也因四衆隨喜而聚石書寫是經全部於一石一字

以瘞口興地口安寶塔於廿六上乎當知此處火不能燒

〔裏面〕

皆元禄十六癸未年

仲春涅槃之日

〔右石右面〕

吉田甚右衛門

利勝

勝屋幸右衛門

拳英

〔正面〕

本願瑞石寺

前住錫煙和尚

石塔之施主

雷洲

〔左面〕

安永八助

貞成

吉田與右衛門

貞久

〔裏面〕

村上金右衛門

俊伯

現住湛水代

立焉

67 庚申塔 宮若市原田(友池) 地藏堂

元禄十五年

奉拜 申尊天

□月吉日

68 たもと石 宮若市宮田五六二九 瑞石寺

(台石右面)

元禄十六誌

□癸未年

二月福生日

(正面)

□作碑求千載下

儼然瑞石道場名

到今名實拜在處

丹鳳山呼萬歳語

(左面)

□□湛水誌之

雷州寄附焉

雜記 本来は瑞石寺門前の田の中に在った。宝永六年完成の『筑前國續風土記拾遺』第二卷は「此寺は豊後泉福寺無着和尚の法嗣天真禪和尚の開基の地にして、泉福寺の末寺也。庭前に高さ三尺ばかり烏帽子のとき石有。此石天真彦山より携へ来る。瑞を現する事あり。是

に依り瑞石寺と称す。」と記している。現たもと石はほぼ二一〇センチメートルである。

69 庚申塔 宮若市宮田三五三〇(生見) 男田神社

元禄十六天

庚申尊天

十二月吉日

70 火慈觀世御佛 宮若市四郎丸 笠松四国第二十四番所

(正面)

宝永二天

□火慈觀世御佛

二月十八日

(左面)

□正八敗龕

□□□市

71 庚申塔 宮若市上大隈 觀音堂

湛六

作介

小平

良七

宝永四年 謹請幸神尊天

三月七日

□次

□藏 七右エ門 藤三郎



□吉  
又作

72 水盤 宮若市磯光一〇八一 初子神社

寶永四年

盥盤石

三月十九日

□□村

六郎七

73 水盤 宮若市黒丸一三六一 平山寺薬師堂

〔右面〕

平山中

〔正面〕

奉寄進

〔左面〕

宝永五年

子二月吉祥日

雑記 平山寺薬師堂は宝永五年火災にあっている。

74 灯燈（一对） 宮若市脇田三四八 黒水神社

〔右側〕

正徳元辛卯歳

黒水神社

〔左側〕

正徳元辛卯歳

黒水神社

六月穀旦

脇田村

松尾伊右衛門

六月穀旦

脇田村

松尾伊右衛門

75 庚申塔 宮若市生見 道端

正徳元年

庚申尊天鎮座

十月五日

76 八幡宮鳥居 宮若市山口一五八〇 八幡神社

〔右柱〕

正徳二壬辰天四月吉日

〔正面額〕

八幡宮

〔左柱〕

願主山口邑之住

塩川正助重武立

雑記 平成三十一年二月八日時点では解体されている。

77 石階段 宮若市平七九二 岡見神社

〔右側上欄干正面〕

正徳癸巳年四月吉日

〔左側上欄干正面〕

奉寄進

78 水盤 宮若市脇田三四八 黒水神社

正徳四甲午歲

黒水神社脇田邑  
大村源右衛門

五月吉祥日

79 庚申塔 宮若市芳賀 道端

(右面)

正徳四甲午天

(正面)

庚申尊天

(左面)

□月吉日

80 灯燈 宮若市金生二二三二〇 白山神社(下宮)

正徳五乙未天

白山宮

九月吉祥日

淺山一閑妻

雜記 境内に同型式、同銘の灯燈がもう一基ある。本来は一對と思われる。

81 喚鐘 宮若市稲光五五二 覚圓寺

(帯一画)

筑前國鞍手郡稲光村

覚圓寺須翁

(帯二画)

正徳六丙申 歲三月十一日

(帯二画下区画)

同國同郡

湯原村

施主

牧相比三郎

冶工

吉村正兵衛

雜記 冶工吉村正兵衛は豊前國小倉鑄物師である。

82 五輪塔 宮若市黒丸一五五八 清水寺

(台石一面)

筑前州鞍手郡若宮吉川

兩庄之善男子歸嚮三寶

有稔干茲明年發願而聚

石相興書寫一切經王供

養已畢而建塔于郡之祈

願所清水寺願主所願者

(二面)

国家安靜萬姓康寧五穀

豊登孫子繩乙矣更莫一

見一念随喜展轉聚沙佛

塔受持書寫如是諸人等

皆共成佛道願心不可卷

而就予需銘子雖不文羨

(三)

其志為銘曰

願心一片深於海淵

經王寫出水鎮萬年

享保二歲次丁酉三月念八日

明光老隱普門鐵相誌焉

清水寺現住阿闍梨隴重代

(四)

書寫願主

原田村安永四郎右衛門員成

竹原村花田與次右衛門重景

福丸村吉田與右衛門利勝

黒丸村安永善次郎一重

同 村安永源右衛門

83 庚申塔 宮若市稲光 上稲光村落入口

(右面)

享保二丁酉年 座中

(正面)

庚申祠建立

(左面)

十一月庚申日

84 庚申塔 宮若市鶴田二一九八 四宮神社

(右面)

享保二年

(正面)

庚申尊天

(左面)

十一月吉日

85 庚申塔 宮若市脇田二九一三(安河内) 須賀神社口

(本体右面)

享保四年

(正面)

庚申尊天

(左面)

二月十七日

(台石正面)

彦四良「原□□」源七「□平」忠六「崑八

〔六行。〕は改行頭

86 荒牧惣右衛門墓 宮若市龍徳七七九一 光明寺

(右面)

享保四己亥天

(正面)

起行院須譽淺故居土

〔左面〕

十月十四日

〔裏面〕

存名荒牧惣右衛門

87 石階段 宮若市山口一五八〇 八幡神社

〔右側上欄干左面〕

奉寄進石階段

〔左側上欄干右面〕

享保五<sup>庚</sup>子<sup>歲</sup>

〔正面〕

二月吉祥日

88 庚申塔 宮若市四郎丸 笠松四国第二十四番

〔本体正面〕

享保六天

庚申尊天

入江口市

丑ノ八月二日

〔台石正面〕

飯倉屋「□平」利右エ門「与七」治市「傳治」武平「伊馬

「清□」「□□」「□□」

〔十一行。「は改行頭」〕

89 水盤 宮若市宮田三六五八 春日神社

享保九辰天

奉納 春日宮

二月吉日 村中子

雜記 当春日神社は大正期に移転してきたので、その際に當水盤も移転。

90 灯燈(二対) 宮若市下一二六九(高宮) 日吉神社

〔右側〕

山王宮

享保十<sup>乙</sup>巳年十一月吉日

〔左側〕

山王宮

享保十<sup>乙</sup>巳年十一月吉日

91 水盤 宮若市山口一五八〇 八幡神社

〔右面〕

松尾弥九郎

〔正面〕

享保十<sup>乙</sup>巳天

奉寄進

十一月吉日

92 灯燈残片 宮若市下一〇〇六 須賀神社

〔右面〕

享保十三戌申歲

〔正面〕

奉寄進

〔左面〕

正月吉日

〔裏面〕

山道與右衛門喜治

93 耕養軒健翁良勇居士 宮若市原田 墓地

〔正面〕

耕養軒健翁良勇居士

〔左面〕

享保十三戊申年九月三日

有吉四郎右衛門員成之墓

〔裏面〕

有吉員成者其為人口泊清素而無分外之念

耘手自務可謂農家者流之精萃也又幸有眉

撫育之恰如掎嬰兒只願長保餘年因別構一室

息之所遠親橫峰倒嶺竹樹流水正是畎中之

也坐臥去留從意所欲自晏如□老□憂父子天合

相適興感喜氣□滿庭□家門之榮幸何以加之王

石詩云古人一口養不以三公換實哉是言也父母

〔この面、上二段ないし三段が読めない。〕

〔右面〕

其順何更思其餘乎吾梁愛之重之因自謂孝養之

相塾專雖深志之所□自不事農業何以奉之乎故

別居日耕養軒且為之記貽之乙卯陽月既望日書西山

晚出默養子帥

不肖有吉八助員正

右耕養軒之記員成二十九歲之時而得之常以珍藏之

故今刻石以備之

94 庚申塔 宮若市上有木 笠松四国第八十二番所

〔右面〕

享保十三戊申天

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

十一月吉日

95 庚申塔 宮若市宮田(山ノ神下) 旧道端

〔右面〕

享保十五 九□ □□

享保十五 九□ □□

□平

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

八月吉日 □ 吉

八月吉日 半四郎

又 □

96 喚鐘 宮若市宮田四八四五 極樂寺

享保十七年壬子十月日

豊前小倉住

冶工吉村彦右衛門尉

藤原信次

筑之前州宮田極楽寺第廿二世

法蓮社界誉菊山代

同國鞍手郡長井津留村

爲両親 榎本藤次郎

爲悲母 同 傳右衛門

爲悲父 同 與三郎

爲悲父 浦部三右衛門

爲先祖 同 藤兵衛

雜記 原物は確認できなかつた。銘は『宮田町誌上巻』によつた。

97 庚申塔 宮若市高野二三四 興玉神社

〔右面〕

享保廿乙卯歲

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

正月吉日

〔台石正面〕

高野村「有吉十歲」「同 安次」「麻生元立」「安永儀正次」「鹽川又七」「大村

與助

〔左面〕

清水藤次「豊福助十」「字平治」「文次郎」「作兵衛」「惣八

〔六行。〕は改行頭

98 灯燈 宮若市宮永二四四(片鉢) 八幡神社

享保廿乙卯稔

奉奇進

三月吉日

宮永邑願主

塩田彦市

99 一字一石塔 宮若市四郎丸 万願寺

〔右面〕

享保二十年乙卯閏三月日

沙門雷門

〔正面〕

一字一石餓死供養塔

〔左面〕

施主五箇村中願主下有木邑有吉勘兵衛

〔裏面〕

稲梁不實枯香菌享保十七壬子年

嚙至癸丑民大死為仲供糧乙卯天

雜記 享保十七年の大飢饉供養碑である。

100 鳥居 宮若市宮永二四四(片鉢) 八幡神社

〔右柱〕

願主邑之少壯男等

奉建立鳥居一區 産徒口造焉

宮永邑保正毛利清藏種脩

〔左柱〕

享保廿歳籠次乙卯晩等施主堀茲春吉勝謹書

雑記 正面額はなく、左柱は折れている。

101 灯燈（一对） 宮若市原田一六二四 原田神社

〔右側〕

〔右側〕

享保二十一年

享保二十一年

原田宮奉寄進

原田宮奉寄進

丙辰二月

丙辰二月

有吉八助員□

有吉八助員□

102 庚申塔 宮若市沼口一九五 若八幡神社

〔右面〕

享保二十一年丙辰四月日

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

□□□□

103 庚申塔 宮若市黒丸尾園 集落入口道端

〔右面〕

元文二丁巳曆

〔正面〕

謹請幸神 鎮座

〔左面〕

施主 □□□□

104 水盤 宮若市本城六一二 三所神社

元文五年

奉寄進

九月吉日

願主

砂吉三郎

105 華光院明譽照壽大姉墓 宮若市乙野二四七 浄久寺墓地

〔右面〕

寛保二壬戌年

〔正面〕

華光院明譽照壽大姉

〔左面〕

勝屋次郎右衛門貞久之妻

山崎氏女享年四十七而卒

不肖子勝屋市右衛門立之

106 庚申塔 宮若市湯原 道端

〔右面〕

寛保三癸亥年

〔正面〕

幸神祠建立

〔左面〕

三月吉日 谷 中大城中

107 庚申塔 宮若市竹原 伊野神社

〔右面〕

寛保三〇亥天

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

八月吉日

108 石祠 宮若市原田三三二(友池) 天満神社

〔右面〕

延享元年

木船社 村中

子八月吉日

雜記 貴船社である。天満宮に合祀されている。

109 灯燈(一對) 宮若市黒丸一五五八 清水寺

〔右側〕

延享二年 小伏村

奉寄進 秋子勘兵衛

丑正月吉日

〔左側〕

延享二年 小伏村

奉寄進 秋子勘兵衛

丑正月吉日

110 庚申塔 宮若市稲光 上稲光村落入口

〔右面〕

延享二乙天

〔正面〕

庚申祠建立

〔左面〕

元月十八日

雜記 祠となっているが型式は碑である。

111 喚鐘 宮若市龍徳一四二三 西教寺

〔二区画〕

筑前鞍手郡

龍徳村

〔空白〕

西教寺四吾現住

丹了代

〔二区画〕

延享四丁卯歳

林鐘佛佛生日



掛是者也

(三区画)

□□世之□夫尚世菩提

□□妻女□□□母菩提

雜記 豊前小倉鑄物師の作品である。

112 水盤 宮若市宮田四三八 (上大隈) 厳島神社

延享四年

奉寄進

□月吉日

當村加市

113 猿田彦塔 宮若市金丸 (西の浦) 天満神社

(右面)

延享五天

(正面)

猿田彦大神

(左面)

三月吉日

114 第二鳥居 宮若市水原三九五―三 若宮八幡神社

(右柱)

建立郡宇社第二鳥居

發起

平村大庄屋

平觸十六箇村中安永弥四良高堅

宮田觸内七箇村 宮田村大庄屋

吉柳隼郎利房

大宮司從五位下藤原朝臣

武章

宰料福丸村

村上金右衛門

金生村

久富定十

印剋運之鳥居寛保二年癸亥八月為風願折

延享五年戊辰三月再建之至文政十一年又

為大風願折於是當社産徒等及筋中勦力一

心又戊子八月建立之以懇祈国家郡郷乎平安

(正面額)

(銘なし)

(左柱)

大庄屋格

發起大保正 庄屋有吉八助

大庄屋格

金生村庄屋 石井大三郎

八尋村庄屋 長谷川清右衛門

山口村庄屋 荒牧兵四郎

乙野村庄屋 安永久七

倉久村庄屋 古野伴六

沼口村庄屋 神谷正藏

天保五甲午年四月吉日

四郎丸村庄屋吉村惣五郎

□□村庄屋 神谷文右衛門

脇田村庄屋 藤□□右衛門

下有木村 庄屋有吉卯三郎

芹田村 庄屋有吉卯三郎

福丸村庄屋 勝屋俊次郎

竹原村 庄屋有吉五郎七

高野村 庄屋有吉五郎七

小伏村庄屋 安藤次助

黒丸村庄屋 安永権次郎

平村庄屋 安永藤次郎

上有木村庄屋神谷武三六

湯原村庄屋 勝屋和右衛門

下 村庄屋 神谷唯平

稲光村庄屋 荒牧三四郎

長井鶴村庄屋榎本善右衛門

115 石祠 宮若市原田三三二 (友池) 天満神社

〔右面〕

延享五戊辰年

奉建立 原田村

五月吉日

116 猿田彦塔 宮若市下有木二七二(宮ノ前) 熊野神社

〔右面〕

延享五戊辰年

〔正面〕

猿田彦大神

〔左面〕

六月吉日

117 庚申塔 宮若市下有木二七二(宮ノ前) 熊野神社

〔右面〕

寛延元天

〔正面〕

謹請庚申鎮□

118 石階段 宮若市脇田一九二三 天満宮

〔上段右側正面〕

寛延二己巳天

〔左面〕

八月□日

當村

奉寄進

一口□

〔埋って読めず〕

〔中段右側正面〕

願主 清水寺内  
伊藤猪右衛門

〔左面〕

〔下段右側正面〕

文化元申子歲  
十一月吉辰日

〔左面〕

119 水盤 宮若市高野二三四 興玉神社

〔右面〕

新平

作次

花田字吉

豊福助吉

〔正面〕

武谷立順

有吉甚十良

興玉神社

同 徳助

同総次良

〔左面〕

香月作七

同 寅吉

有永宅次

〔裏面〕

寛延三年

午正月吉日

120 庚申塔 宮若市福丸二九四 日吉神社

〔右面〕

寛延三<sup>庚</sup>午<sup>年</sup>

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

正月吉日

121 日吉神社鳥居 宮若市鶴田八六五 (清水浦) 日吉神社

〔右柱〕

奉創建鳥居一區 鞍手郡鶴田邑産徒中

〔空白〕

保正弓削田源四郎

〔正面額〕

日吉神社

〔左柱〕

龍徳邑大保正

寛延四年辛未春彌生穀旦原田九郎五郎重知

〔空白〕

大宮司藤原正義拜誌

122 灯燈 (一対) 宮若市水原三九五 若宮八幡神社

〔右側右面〕

寶曆二年

〔正面〕

奉寄進 (左三行上横書き)

竹原村

安藤太次右衛門

武房

〔左側正面〕

奉寄進 (左三行上に横書き)

竹原村

安藤太次右衛門

武房

〔左面〕

壬申

五月吉日

123 庚申塔 宮若市黒丸 尾蘭集落入口

〔本体右面〕

寶曆三年

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

酉四月吉日

〔台石正面〕

平山康□「竹尾□門」上原□内「安永□□」同武次「同藤□」□□□□

〔七行。「は改行頭。」〕

124 石祠 宮若市黒丸一五五八 高木神社境内

〔右面〕

宝曆四申年

〔左面〕

四月吉日

雜記 明治五年に山王社から高木神社に改名と聞く。

125 庚申塔 若市沼口一九五 若八幡神社

〔右面〕

宝曆四<sub>申</sub>年

〔正面〕

庚申命天

〔左面〕

四月吉日

126 庚申塔 宮若市宮田(所田) 祭壇

〔右面〕

宝曆四年

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

十一月吉日

雜記 所田集落の厄払い。祭壇に八基の庚申塔が祀られていたが、今は七基祀られている。

127 庚申塔 宮若市宮田如来田 道端

宝曆五年

庚申尊天

三月吉日

128 庚申塔 宮若市芹田 道端

宝曆六子年

庚申尊天

十月吉日

雜記 当該地は一本松と呼ばれ、昔は松が一本あったと言う。また、豊前坊山の登り口でもある。

129 水盤 宮若市稲光一番 宇佐八幡神社

宝曆七年

奉奇進 村中

九月吉日

130 祠 宮若市宮田 お堂

〔右面〕

宝曆七丁丑天

金村中

十二月吉日

〔左面〕

船越

伊三右衛門

造立之

131 石祠 宮若市金丸二九三 天満神社

〔右面〕

時保正

長谷川清七徳啓

〔左面〕

奉 建立正殿一字 村中

先是鎮座尤

久矣舊殿乃

大破依之今

〔裏面〕

年宝曆八戊

寅冬石殿奉

建立者也

宝曆八年

戊寅十二月日

132 水盤 宮若市本城二三四七 須賀神社

奉寄進

本城村

産子中

寶曆九年

卯五月吉日

133 石祠 宮若市宮田一二六〇(脇野) 乙子神社

〔裏面〕

宝曆十一 辛巳年

二月十七日

若者中

祈念佛

雜記 石祠内に石佛が祀られている。神社境内であり、神仏習合を示している。

134 水盤 宮若市黒丸一五五八 清水寺

宝曆十一年

奉寄進

四月吉日

135 庚申塔 宮若市宮田(生見) 集落入口の道端

〔右面〕

宝曆十一巳天

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

十一月吉日

136 庚申塔 宮若市宮田(所田) 祭壇

〔右面〕

宝曆十二壬午天

〔正面〕

申尊天

〔左面〕

正月月吉日

〔台石〕

文次郎

□伝□

彦右工門

彦七

右之介

彦□

松次

明和元年

奉寄進

申十二月吉日

安永正治郎

井上善藏

安藤加四郎

北原孫治郎

〔左側〕

明和元年

奉寄進

申十二月吉日

安永彌十郎

井上善藏

仲光彦治郎

雜記 当灯燈は崩れている。

138 武谷元榮甫之墓 宮若市高野 墓地

〔正面〕

武谷元榮甫之墓

〔左面〕

公姓武谷諱徳明字元榮「武谷大炊佐諱波明六世」之孫也世居于鞍手縣御「徳  
邑公好學敦行且長於「方技後遷家于高野邑以「醫為業濟生之功徧于民」間  
以故頗得郷縣之譽焉「明和二乙酉十月念九病」卒于家享年八十有一

137 灯燈(一对) 宮若市稻光一 宇佐八幡神社

〔右側〕

雜記 所田集落の厄払い。祭壇に八基の庚申塔が祀られていたが、今は七基祀られている。

〔九行。「は改行頭。」〕

雑記 江戸時代、公的には縣は使用していないので、個人的思考である。

139 黒水宮鳥居 宮若市脇田三四八 黒水神社

〔右柱〕

奉寄進

脇田村 産子中  
湯原村  
同村 安永仁右衛門

〔正面額〕

黒水□

〔左柱〕

大宮司

明和四丁亥年五月吉日

國井内膳藤原貞時

140 猿田彦塔 宮若市水原 天満宮

〔本体正面〕

明和亥四年

〔台石正面〕

猿田彦大神

村中

九月吉日

141 興玉社鳥居 宮若市高野二三四 興玉神社

〔右柱〕

奉寄進神門一雙

大保正

□□□□

〔正面額〕

興玉神社

〔左柱〕

明和四丁亥年十一月吉日 産徒中

雑記 境内に「興玉社」額が転がっている。左右柱と額は同質の砂岩である。現在の「興玉神社」額の材質は花崗岩である。

142 猿田彦塔 宮若市平七九二 岡見神社

〔右面〕

明和五歳

〔正面〕

猿田彦大神

〔左面〕

戊子二月日

143 庚申塔 宮若市宮田 脇野集落入口道端

〔右面〕

明和五戊子季

〔正面〕

庚申尊天

〔左面〕

十月吉日